

ユニークな「劇場型セッション」

原子力機構 核セキュリティでWS

日本原子力研究開発機構。同機構の核不拡散・核セキュリティ総合支援センターと世界核セキュリティ協会(WINS)の共催によるもので、実演セッションをもとに、参加者同志がグループで討議する「劇場型セッション」を取り入れたユニークな取組だ。

セセッション開始に先立ち、WINS代表のロジャー・ホーレー氏は、「ベスト・プラクティスの共有」といったWINSの掲げるセキュリティ・ガバナンスの精神を強調、参加者同志、有意義な議論がなされることを期待した。

「劇場型セッション」で演出に当たったのは、社会技術関連の啓発で小芝居を多く手がける英国のAKTプロダクションで、今回、進行に当たった同社のスー・ブリッグス氏は、シエルクスピアの「この世はすべて舞台」という名言を引用しながら、演劇を通じて世界を見る」という本セッションの意義を述べた上で、



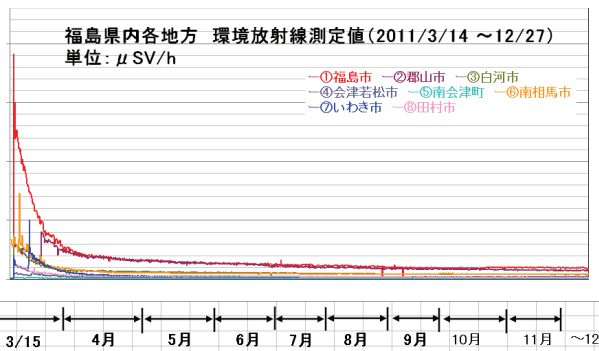
「オープンな姿勢」、「率直な意見」、「誠実な対話」、「尊重すべき課題」をAKTの重点姿勢として示し、実演を始めた。

例えば、原子力発電所の施設長と警察幹部との対話を演じてみせ、事業者と警備当局との連携・協力のあり方について討議させるなど、講義だけでは得られぬ臨場感を与え、より実質的な議論を促す。

福島県内の環境放射線量変化

11年3月

半径二十キロの警戒区域や計画的避難区域を除き、継続的に測定できた福島県の主な地点の放射線量を図に示す。その地点に、その日時に一時



の風向き、運ばれた先の各地点での天候、雨や降雪により、地上に降下した放射性物質による放射線量が大きく異なっていた。

その後は、事故原発から放出されるセシウム134(半減期約二年)とセシウム137(半減期約三十年)の放出量そのものが急激に減少し、各地域に沈着した放射性セシウムも雨水に押し流されたり、半減期による減衰などで、その影響も次第に減少、今年に入ってから、低位でほとんど変化はない。

4トントラックにも積める

除染システム 被災地で実証実験



コンバート有責任事業組合は、「移動式除染・減容化システム」(II号) 発した車載式熱分解装置「コンバート」とインパクトが開発した放射性セシウム吸着剤「MII-4A(エムアイ・フォーエー)」を組み合わせたもの。「コンバート」は、四トントラックに車載可能な熱分解装置で、従来型装置の六分の一以下の大きさ。約二

ト(約一立方メートル)の汚染土壌を一時間で除染・減容化し、高濃度セシウムを抽出できる(コンバート標準タイプPW216000の場合、四百〜五百℃で炭化する)ことで、汚染廃棄物の体積を最大十分の一度まで減容可能。内部機構に回転キルン型を採用しているため、連続投入もできる。

また、焼却炉は環境アセスメントや設置許可が必要となるが、同装置は排出されるガスを燃焼させずに分解することで無害化する熱分解装置に区分されており、どこでも容易に運搬設置できる。

一方、「MII-4A」は、三十秒から三分未満で九割以上のセシウムを凝集させて沈殿できる水処理用の吸着剤。約一・五kgの「MII-4A」で一トンの汚染水処理が可能で、同量のセオライトに比べ約十倍の処理能力で約二分の一の価格となっている。

現在、「コンバート」と「MII-4A」は福島県と宮城県内において実証実験が進められており、汚染土壌や廃棄物をその場で直ちに低コストで除染・減容化できる技術として自治体や産業廃棄物処理業者などで活用

福島事故特別セッションも

原子力学会 福井大学で年會

日本原子力学会は三月十九日から二十一日まで、福井市の福井大学・文京キャンパスで「春の年會」を開催する。一般市民も無料で聴講できる「福島第一原子力発電所事故特別セッション」などもあ

「福島第一原子力発電所事故特別セッション」は、十九日午前十時から午後五時まで、天野IAE A事務局長のビデオメッセージ、事故の概要、事故後の取り組み、他発電所の安全確保対策、放射線測定、除染活動の後、総合討論を行う。

二十日午後には、吉野恭司・経産省原子力政策課長による「原子力政策に関する国内外の動向と今後の課題」講演も予定されている。

詳細は同学会ホームページを参照。問い合わせは、同学会事務局(電話03-3508-1126)まで。



Leading Supplier of Nuclear Fuel Cycle Goods and Services



株式会社テネックス・ジャパン
TENEX-JAPAN Co.,

東京都港区虎の門5丁目11番2号 オランダヒルズ森タワー14F
(Tel) :03-5776-1511 (Fax) :03-5776-1512